

立命館大学 理工学部 交通マネジメント工学研究室

塩見 康博 准教授



立命館大学 理工学部
交通マネジメント工学研究室 塩見 康博准教授

専門分野

- ・ 交通工学
- ・ 交通計画

キーワード

- ・ 動的交通マネジメント
- ・ 地域公共交通

TEL: 077-561-5094

E-mail: shiomi@fc.ritsumei.ac.jp

Website: <http://shiomi.rits-ese.jp>

■研究室内の概要

2012年に立命館大学に着任して以降、「交通マネジメント工学研究室」の看板を掲げて研究活動を行っております。研究室名の由来ですが、私が学生のときに在籍しておりました京都大学の「交通行動システム研究室」と、博士取得後に助教として勤めさせていただいた「交通情報工学研究室」の両研究室の属する講座が「交通マネジメント工学講座」であり、それが私のアイデンティティであると考えて、恐れ多くもその名を拝借した次第です。

着任当初は学部生2名のみの小さい研究室でしたが、2019年3月時点では、大学院生9名（博士課程含む）、学部生10名の計19名で活動しています。

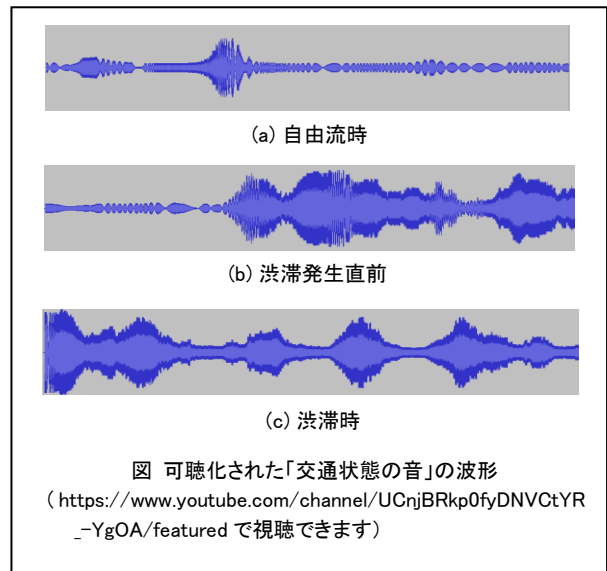
■主な研究取り組み

「マネジメント」という用語は漠然としておりますが、我々は「対象とする事物が最大限の能力を発揮できるようにすること」と捉えています。現在のインフラや制度を与件とし、また、ときには新たな技術や制度・インフラを想定・提案した上で、交通に関わる諸問題を解決するための方法論について研究を行っています。以下、近年の特徴的な取り組みについて、ご紹介いたします。

交通流の可聴化

交通渋滞は経済損失・環境負荷・事故リスクなどの点で、いまだに喫緊の課題です。道路ネットワークの拡充、情報通信技術の進展に伴って、マネジメント手法も多様化しつつあります。それらを適切に組み合わせて渋滞の削減を図る手法の開発に取り組んでいます。

その一環として、「交通流の可聴化」に取り組んでいます。可聴化（Sonification）とはデータを音に変換する手法のことで、データマイニングや状態モニタリングなどに活用されています。交通状態を可聴化することで曖昧な交通状況の動的・微細な変化をドライバーに直感的に伝達することが可能となります。それを交通マネジメントに応用する取り組みを進めています。



公共交通の利便性向上

昨年度、県や交通事業者2社（A社とB社）と共同で、両バス会社の運行する路線を乗り放題にする、という実験を行いました。当該地域では一部エリアを重複しつつも、X大学のエリアは主にA社、Y大学のエリアは主にB社が運行しており、各社の運行エリア内で学生の行動範囲が限定されている、バスのリソースを十分に活用できていない、などの問題意識があったためです。

実験の結果、これまで通学に限定されていたバスの利用目的が多様化すること、A社とB社両方のバス路線を利用する学生が増加すること、また、バス会社としては十分採算性があることなどが確認できました。

我々はこの実験を「(なんちゃって) MaaS」と位置付けています。今後は規模や対象も拡大して、MaaSの社会的インパクトを計測する取り組みを進めています。

■おわりに

掲載いたしました内容は取り組みのごくごく一部です。ご興味を持たれた方はお気軽にお問い合わせください。